

## 同窓生インタビュー 南極越冬隊長 工藤栄さん（第51期）

能代高校東京同窓会会報「松陵健児」第20号（平成22年）未掲載分をお送りします。

### ●能代高校時代、その前後のこと

Q：生年月日を教えてください。

A：1963年1月6日(昭和38年)

Q：出身中学校を教えてください。

A：山本町立山本中学校

Q：能代高校時代でいちばんの思い出は何ですか。勉強、部活、遊び、学校行事など何でもけっこうです。

A：部活にまつわる種々雑多な物語かな(ブラスバンド部でした)。

Q：高校時代、「南極にいる自分」を想像したことがありましたか。

A：全くなかったよ

Q：卒業時の『巨濤』に、工藤さんは以下のように書いていました：

----「生きる」ことより自分を「いかす」ことをめざし、今やれなければならないことを認識し行うことは、むずかしい。しかし、もし人間の価値というものがあるならばこれらの実現にあるのではないか。我々は「気力」という唯一最大の手段を持っている。----  
難しいことを考えていたようですが、これは当時から今日の仕事を見据えてのことでしょうか。

A：へえ、あの当時、極めて正しい若者らしく哲学していたんだねえ！本人もびっくり。そういえば思春期っぽい、この先どういう人になるようにしていかなきゃいけないのか？って目標が具体的に定まらず、とにかくやってみたいことに全力でぶつかっていきこう、と思っていたのだなあ。いまでも「自分を生かすような人生を創っていく」みたいなことは、変わらずに心がけているねえ。ああ、そうか！ねっから私、そんなところがあったのかあ、と再発見。

Q：高校卒業後の略歴を教えてください。

A：筑波大学第二学群生物学類に当時(今もある?)推薦入学の枠で入り込んで、ここを卒業、卒業後、同大学大学院生物科学研究科博士課程にひとたび入学しましたが、入ったところの指導教官が他大学に転任したことにもなって、翌年、東京大学大学院理学研究科植物学専攻へ入学しなおしました。ここで修士課程(2年)、博士課程(3年)を終えて、運よく、すぐさま現在の職場、国立極地研究所の北極圏環境研究センターに助手として採用されました。現在、同研究所の研究教育系准教授として在籍しております。

職を得た当初、アラスカ沖・カナダ北極・ノルウエー北方にあるスバルバル諸島と北海道サロマ湖なんかで海の氷の上・あるいは北極と北極縁辺海での仕事に携わり、年間3ヶ月ほど辺境(北海道サロマ湖周辺は辺境ではありません！たぶん・・・)でくらしていました。こんな生活を5、6年ほどした後、34歳ぐらいの時から南極での仕事にかかわり出しました。以降第40次越冬隊、43次・44次は夏隊、45次越冬隊、48次・49次夏隊、そして今回51次越冬隊として南極観測に従事しています。

## ●南極と越冬隊のこと

Q：南極越冬隊を志願したのは？

A：観測隊には大きく分けて砕氷船で南極の夏に到着して活動をし、その砕氷船に乗って帰る夏隊とそこにとどまって越冬して仕事を続ける越冬隊の2つのチームがあります。南極の夏は24時間日も沈まず、雪も融けてなくなるほどの天候、この期間を利用して活発な観測活動ができる期間です。越冬隊は基地をまもりながら、地道に観測データを取り続けたり、内陸奥地や沿岸にある陸地での観測を行っています。仕事をするうえでは夏は夏の特徴、越冬は秋や冬あけの活動ができるという特徴があって、南極の生き物を研究しようとした場合、この南極の厳しさの中で生きている実態を捉えるには越冬、なにかターゲットを定めて集中してやろうとした場合には夏の観測を繰り返し実施するのが向いていると思います。

Q：越冬隊に行くまでにどんな訓練をするのですか。

A：たぶん皆さんが考えているほど特殊な訓練はしませんよ。私の場合、大学院の時に湖や海での調査を重ねていたし、職を得てからも北極で、おそらくかなり普通じゃない仕事をしていたこともあったんで、別段、特別な訓練と感じなかったのかもしれませんが。

通常は、冬に乗鞍で「冬山訓練」、夏に「夏期総合訓練」の二つの野外で行う訓練に参加します。冬の訓練では「雪」に慣れること、隊員相互の親睦をはかること等を目的として、雪の原野を(夏の牧場と野山なのだが)コンパスと地図で目的地にたどり着く訓練、緊急野営(ビバーク)で雪山の中で宿泊する訓練、ロープ(ザイル)を使った人が人の搬送等の訓練を行っています。夏の訓練はその年に企画する観測や基地の建築作業などの打ち合わせや調整が主体で、これに救急救命訓練、消火訓練などが組み込まれてもいます。これらは出発前に1度っきりしか経験しないものです。このほか、それぞれの分野で、部門に特化した訓練をします。たとえば建築関係だと、実際の建物の仮組だとか。我々生物チームはこのところ、湖調査が主体で動いていたので、ゴムボートを使った各種の観測訓練、潜水観測の訓練なんかを何度か行ってから南極に向かっておりました。

Q：昭和基地では特殊な「歓迎行事」があると聞きましたが、どのような行事ですか。

A：なんだろう？特殊な歓迎行事って？ごく普通の歓迎行事だ、と思うのだけれど。新しい隊が来たとき、送り出すときのパーティーは料理人が腕をふるってごちそうを作ります。儀式的には2月1日ぐらいに「越冬交代式」で新旧の越冬隊員が基地主要部の管理を交代しますねえ。この時は樽酒を開けて乾杯して記念写真を撮るぐらいかな？

Q：南極はきれいな青空ですが、平均気温は何度くらいでしょうか。

A：年平均気温はマイナス10度ぐらい。ただこれはあくまでも平均値。これまでの昭和基地での最低気温の記録はマイナス45度ぐらいかな、確か。青空が広がり風が弱いときに放射冷却が重なると低温になるね。冬あけの7~8月が一番低温になるよ。ちなみにブリザード(雪嵐)になると、気温は0度近くまで上昇するのですよ。これは北の海上の湿った暖かい空気が低気圧に引き込まれてくるので温度上昇するんです。屋外にいと暴風で暖かさを感じる隙はないけどね。だけどこの時の雪は湿っていて、上着がたちまちびしょびしょになってしまうほど(そのまま放置すればもちろん氷の上着になってしまうけどね)。

Q：外で活動できる最低温度は何度くらいですか。

A：人間生きていればかなり寒くても活動はできるもんだよ、防寒対策さえしっかりしていれば、と答えると身も蓋もないので、少々解説を加えます。風がほとんどないならばマイ

ナス20度ぐらいでも上着なしで雪かきなどの作業は普通にできます。汗が凍結し、たちまち髪や髭、衣類を真っ白にしますけれど。マイナス30度になると息をしていると鼻毛が凍る感覚がわかりますね。マイナス30度より下回ると、さすがに長い時間外での作業はつらいなあと感じます。少しでも風が吹いてくると「もうすぐ死ぬね!」という死にそうな実感が味わえます。内陸を雪上車で旅行をしている場合、外気温がマイナス60度ということもあるみたいで(残念ながら南極の中央奥地までは私は行っていません。生き物がいないゆえ、仕事にありつけないもので)、それでも給油や観測のため、短時間ですが外で作業をしながら移動しています。極力皮膚を外気にさらさないようにしているのですが、軽い凍傷は数分でなってしまいますから注意が必要ですね。

Q：昭和基地から最も近い他国の基地とはどの程度離れているのでしょうか。

A：ロシアのマラジョージナヤ基地というのがおよそ300km離れたところにあるのが一番近いのかな？昭和基地の周りは南極の中でも「到達不能点」とかつて記されていた場所で、他国の基地はないのです。

Q：他国の基地と交流はあるのでしょうか。たとえばどのようなことで？

A：夏の期間、最近開設された飛行機ネットワークを使って(南アフリカから東南極の基地の間をむすぶ路線)外国人研究者が共同で観測をしたり、砕氷船へ研究者が乗り込んで共同で観測したりします。越冬に入ってから他国の基地との交流は、極夜祭(ミッドウインター祭)にグリーティングカードを交換するぐらいかな？日本の夏至(南極の冬至)にあたる6月20日頃、太陽の昇らない南極ではこの日を境に越冬の折り返し点であるということからも、盛大にお祭りをするというのが世界的な行事となっています。

#### ●南極と環境問題

Q：地球温暖化で、南極はどのような影響を受けているのでしょうか。

A：今のところ、昭和基地の周辺で温暖化の影響を受けているというようなことは実感できませんねえ。50年前からずっと観測している気温も特にこのところ上昇しているなんて感じでもないんですよ。

Q：氷河は一体どのくらい溶けているのでしょうか。

A：南極にある氷床はおそらくほとんど変化していない、変化を感知できるレベルの影響が表れていない、というのが実情じゃないかなあ？南極半島部、南極に隣接した島等では氷河の融解などが顕著に観測されるらしいのですが、南極大陸ではそれほど大規模な温暖化の影響と思われる現象は生じていないんですよ。

Q：それはどのように地球に影響を及ぼすのでしょうか。

A：たとえば地球上の淡水のほとんどは実は南極の氷として南極大陸の上に「保管」されています。この氷が消失した場合、海水レベルが数十メートル上昇し、現在の平野部、都市はすべて海の底になってしまう、なんてことが言われていますよね。そんなことが起こる前に、もっと様々な複雑な気候変動・海の循環システムの変化が起こるでしょうから、今のうちに山の高いところへ土地を買って引っ越しを済ませておく、なんてことは(してもいいですけど)しても回避できる問題じゃない気がしますねえ。これまでも何度も氷河期と暖かい期間を経験してきた地球、これから先も変化はとどまるはずはありません。ただし、人間の活動が環境の変化を導くほど大きなものであるという認識をもって、この先自分たちが生き延びていくとしたらどんな環境の下でどんな暮らしをすることを理想とするのか、

みたいなことを思い描いて活動し始める必要があるよね。お、結構真面目な回答をしちゃったなあ。

Q：オゾンホール拡大で、紫外線や宇宙線（放射線）のために特別な対策をとっていますか。

A：南極はオゾンホール拡大の以前から、空気がきれいで雪や氷で太陽光が反射することで、夏の間、紫外線がとても強い環境でした。オゾンホールは8月の終わりから10月にかけて南極上空で拡大する現象で（真夏の11月～2月にはオゾン濃度は通常レベルに回復するんですよ）、この意味で太陽が輝きだした春に紫外線がとても強くなる期間ができたということになりますね。南極観測開始当初から、強い紫外線で雪盲（せつもう）になっちゃうとか、強い日焼けでタラコチビル人間化しちゃうとかで、サングラス・ゴーグルなどは必須アイテムでした。UVケアクリームなんかでも隊員たちは防御していますし、女性隊員などはフェイスマスク等で肌をさらさないように夏の間活動していますね。

Q：昭和基地でのゴミの処理について、分別、回収方法など、環境に配慮してどんな工夫がされているのでしょうか。全部持ち帰りますか？

A：基本的には可燃物は昭和基地にある焼却炉で焼却処分、生ごみは生ごみ処理機で炭化して処分、焼却灰はドラム缶に詰めて持ち帰ります。そのほかのゴミは非常に細かく分別して減容して全て持ち帰っています。思いつくまま区分を書くと、可燃物、プラスチック、ペットボトル、アルミ缶、スチール缶、ガラス（粉碎します）、金属、ゴム、皮革、蛍光灯類、電池、ダンボール（可能なものは焼却）、木材、複合物（分離不可能な2種以上の素材のもの、電線とか剃刀とかもこの範疇）、衣類こんなのが日常生活ででるごみかな？このほか古くなった観測機械、作業機械、撤去した設備、車両など大型廃棄物もあります。このところ毎年300トンぐらいを廃棄物として持ち帰っているのですよ。

Q：残飯を出さないために鍋ものあとはカレーにするという話を耳にしました。ゴミを出さないように、食事にはどんな工夫をしていますか。一日（朝昼夕）のメニュー例を挙げてください。

A：こりやまた、ちょっと外しましたね。野外へ観測へ出かける場合、キャンプ生活で、必要な水を確保するのが最も大変なことになるのです。水なんか持っていけばいいじゃん、なんて思うかもしれませんが、ポリタンクで持っていったとしても、夏の間なら、まあ、なんとかそれでもいいのですが、冬はたちまち凍ってしまって、ポリタンクから水などでできやしない事になるんだ。だから、旅行では旅行先の雪や氷を溶かして水を作るってことになるのだ。こんな生活をしていると、食器を洗うということが、まあ、できないということになる。なるべく食器がきれいになるように食事をする、最後にお茶碗でお茶をのむとか、ちょっとした工夫をしながらすすめて、最後に紙で拭きとっておしまい、という具合になるんだ。鍋やフライパンはどうするのかというと、これも基本的には拭くだけ。作る方も、その辺は考えてどうしようもなく汚れてしまわないようにして料理を作る。カレーはやっかいだよなあ。これはその後の処理を何とか覚悟して（それでもカレーチャーハンのようなものを作って極力鍋をきれいにするとか）作るね、野外では。

基地ではプロの調理人が2名隊員として参加しているので、食生活に困ることはまずない。プロの料理を楽しみに隊員は日々食卓を囲んでいるのだよ。

### ●南極とメディア／ネット

Q：越冬隊に朝日新聞の記者が同行していますが、（紙の）新聞は読むことが可能ですか。そ

の場合の運送手段と回数（一週間遅れとか）、新聞紙名、など教えてください。

A：朝日新聞の中山由美ちゃん（ゆみねえ）、武田剛くん（たけちゃん）が越冬していたのは6年前のこと。今年各メディアの記者・クルーは夏期間で帰ったんですよ。ゆみねえはなんだかまたついてきやがったし、テレビ朝日のクルーが2名、共同通信の記者1名、そして秋田魁新報社の安藤記者の5名が51次観測隊の夏期間に活動していました。

そういえばその昔はFAXかなんかで新聞を日本から送信してもらっていたこともあったような気がしますが、インターネットでリアルタイムに情報が入ってくる時代になっちゃったので、もはや忘れ去られたものになっていますねえ。

Q：基地の通信システムやIT環境はどんな感じ？メール、ブログ等インターネットへのアクセス状況はどうなっていますか。NECグループが観測活動に参加しているそうですね。

A：ちょうど6年前の越冬の時、衛星回線を接続しインターネット常時接続環境にしたんですよ。だから今年もその恩恵にあずかれています。電話料金も隊員に課せられるのは東京から電話先までの料金だけ。そのちょっと前は船舶で利用しているインマル通信で、電子メールや観測データなどを一日に何度かまとめて日本へ送受信させる方式でした。電話料金も結構高くて、1分500円ぐらいしたんじゃないかなあ？月々の電話料金が数十万円かかったという隊員もいるみたいなのが伝説として残っていたりします。

NEC、KDDI (au) グループの隊員も参加していますよ。

Q：基地の電気の供給はどうなってるの？電力会社は無さそう。では自家発電？だとしたらエネルギー源は？？？

A：電力はもちろん、すべての活動が「自給自足」っていうのが南極観測隊なのだ。各自勝手に会社を名乗ることも可能。たとえばJA隊長室ではモヤシと貝割菜を供給しています、とか。ところで電力は300kVAという能力のディーゼル発電機2基を交互運転させて必要な電力のほとんどを賄っているのです。一般家庭の50軒分ぐらいの電力かなあ？これに太陽光発電と風力発電設備がありますが、今のところごくわずかの電力を供給するだけです。自然エネルギーはどうしても不安定だし。ソーラーパネルにしても風力発電の風車にしても、低温で風が強すぎる環境での耐久性にもまだまだ問題があるのだな。これから2月ほどはお日様も出ないしね。

### ●南極での日常と娯楽

Q：南極にいて、これがなくて不便（または、つまらない、困る）というものがあれば教えてください。

A：釣り船だな！日本での私の最大の趣味（釣って食べること）ができないこと。とはいえ、この昭和基地の周りの海の氷に穴をあけ、そこから魚介類を採集、釣りあげるなどということはいとも簡単にできるのだけどね、穴さえあけちまえば。まあ、2mを超える厚さの氷に穴をあける作業は、慣れていても、かなり面倒な土方作業。で、そこから漁獲できる獲物が、労力に見合っただけのものならやってもいいんだけど、どうも、自分の好みにあわない（人によってはウマイと言って喜んで食べる人もいるのだが）ので、今年は海の観測仕事を抱えているわけではないのもあって、ほとんどやっていないのですなあ。

Q：南極経験後、日本に戻ったとき、これがなくて不便（または、つまらない、困る）というものがあれば教えてください。

A：工事現場で使うパワーショベル・ブルドーザーなどの重機、トラックかなあ。南極では日常的に作業で使うからねえ。さすがに雪上車なんかはこちらでは日常的に使うけど、日本

じゃその能力を発揮できるような場面に遭遇しないからねえ。

Q：南極基地周辺でお気に入りのスポットはありますか。写真で紹介していただきたいのですが。

A：これは実はとても難しいのだ、たくさんありすぎて。秋田テレビのホームページの中にあるブログ (<http://akt.co.jp/akt-blog/adiary.cgi/nankyoku/>) に写真をいくつも掲載しているので(掲載している写真は、まず間違いなくお気に入りのものだから)、そちらをご覧ください。

Q：やっぱりペンギンって近所にウジャウジャいるんですか。人に慣れている子とかいるんですか???外ネコならぬ、外ペンギンみたいな。。。

A：近所、うじゃうじゃをどのレベルで語るかっていうことがまず、第一かな?ペンギンはそうねえ、10月中ば過ぎ、基地の周りの島々や大陸の沿岸に北の方から渡ってくるのですな。この時行列を作って移動してくるので、基地の周りを多数うろつく姿を目にします。ペンギンは生まれ故郷の土地(ルッカリー：集団営巣地)へ産卵と子育てのために戻ってくるわけだ。基地の傍で一番大きなルッカリーはおよそ3000羽の規模、20羽ちょっとしかいない小じんまりしたものも、中にはあるよ。この数自身も、つい5年前まではすごーく増えだしたなあ、という感じだったけど今年は、あれま、海の状況が厳しかったんで減っちゃったかなあ?と思ったほどだった。果たして今年の11~12月の調査ではどうなっているのか?ところで、ペンギンは好奇心旺盛で、我々が作業していると近づいてきて「ガー」と声をかけたりもしますが、「人慣れした」というものは残念ながらいませんね。これら野生動物を餌付けしたりするのは禁止されていますし、許可なく近づく(5m以内)ことすら法律で禁じられているのですよ。とはいえ、かってにやつらから近づいてくることはしばしばなんだけどね。4月初めごろまでには、いつの間にか基地の周りからいなくなっているよ。

Q：南極での一般的な娯楽は何ですか。

その娯楽のなかで、工藤さんがいちばん楽しみにしていることは何ですか。

A：一般的…かどうかはわかりませんが、私にとっては南極の野外観測に出かけること自体が、この上ない楽しみですね。娯楽というよりは仕事なんだろうけど。厳しくも美しい世界に触れるってこと。ところで、最近の隊員の基地での娯楽活動としては対戦型テレビゲーム(プレステ・Wii)、ボードゲーム(キャロム)、麻雀、バンド活動が今のところの主流かな?太陽の昇らない暗夜期に入り、6月の冬至(日本の夏至)には南極の最大のお祭り、ミッドウインター祭があり、おそらくこれからバンド練習や演芸練習が活発化する予想。前回の越冬の時(6年前)、私はフルートを購入して持ってきて、外に出られない機会に練習しました。高校時代ブラスバンドでしたが、バスクラリネットだったので、フルートを手にしたのはこの時が最初。今回も持ってきていますよ。JAZZのスタンダードナンバーを練習していますが、なにぶん独学なもので、なかなか向上しないのだな。理想としては曲が流れるとスラーと合わせられるぐらいになればと思うのだが、まだまだテーマすら楽譜見ながらじゃないと吹けないレベル。あと何回越冬したらその境地になれるか、成れないのか?

Q：テレビは観れるんですか。観れるならどんなチャンネルが???地デジ移行済み???  
(笑)

A：裏技でテレビを見る(日本とテレビ会議回線をつなぐ、など)やり方はあるようなのですが、日常的にはやっていませんねえ。国内側の対応とか法律上の問題なんかがあるらしいのですよ、どうやら。つい先日、隊員の福利厚生のため「ワールドカップサッカー」を中継し

てほしいと申し出たら、何だかそんなことで国内側からダメ出しをもらいました。だけど別に(私は)テレビなんて、どうでもいいんですけどね。昭和基地にはひと世代前にはこの映像メディアとしては16ミリフィルム(映画)を持ち込んで、毎週1回上映する、という時代にはじまり、次いでVHS・ベータビデオでの映像放映、現在ではDVDメディアによる映画や録画番組の放映がAV係(アダルトじゃなくオーディオ・ビデオね)によって毎週一回、プロジェクターと大画面液晶モニターで提供されています。これらメディアは、隊員個人がパソコンやハードディスクに収録して持ち込んでいる物も合わせると、けたたましい量になっているはず。普段日本にいてほとんどテレビドラマなどを見ない私なのですが、ちょっと懐かしいテレビドラマを昭和基地で初めてみる、なんてことで楽しんでおります。6年前に越冬した時はそのさらに5、6年まえ(もっと前か?)の「東京ラブストーリー」なんかをみんなでやきもきしながらみていましたねえ。今年は韓流ドラマでもみてみようかなあ…。

Q：南極では音楽を聴いていますか。今、お気に入りの曲があれば教えてください。

A：隊長は隊長室という部屋で執務(おお、かっこいい響き!)しており、ここにミニコンポ(中古品)を今回の越冬のためにハード・オフで急遽購入(おいおい、隊長なんだから気前よく、って気持ちになれなかったなあ…)、大体いつもJAZZを流しています。最近は何のどのアルバムにこだわって聞くなんてことは、全くしなくなって、特選JAZZオムニバス6枚組みみたいなものとか、U-senのJAZZチャンネルから越冬前に録音したMDとか。

Q：基地内に「バー」なる所はあるのでしょうか。

A：もちろんありますよ。10人掛けぐらいのカウンター、サイドにテーブル席ひとつ。この奥にはラウンジにソファ・ダーツ・プール(ビリヤード台)、テレビゲーム・カラオケセット・キーボードやドラム・ギター・ベース(含むアンプ)・スロットマシンなどがおかれた娛樂ルームが隣り合っています。我々は週3日の定常営業でバー係りというのを設け運営しています。

Q：基地内で現金を使う場面はあるのでしょうか。

A：全くない、って言うてもいいね。使おうとするなら隊員仲間でギャンブルにハシるっていうのもありそうなのですが…これがまた、まったく誰もそんなことをしないんですね、不思議なことに。あ、ただ、唯一あるとしたら、昭和基地の中で切手を購入する場合、お金を使うね。もっとも、郵便は年一回の集配しかないけど、これから越冬しようとする人が、夏で帰る人たちに日本などへ郵便物を託すときなんかには切手の需要があるよ。

Q：お手洗いの環境ってどうなってるんですか???水洗?でも下水管の整備がされているようにも思えない。蓄積タイプ?だとすると気候が気候だけにフリーズしたまま分解せずに、溜まる一方のような。。。ヤバチィ話ですいません。。。でも、かなり疑問です～。

A：いえいえ、南極では環境負荷に関してはかなり厳しく取り組んでいるんですよ。基地内に「汚水処理施設」があるのです。お手洗いはもちろん、全ての生活排水はこの処理施設で浄化されたのち、処理水を海へと放流、沈殿した固形物(汚泥)は固化して持ち帰っています。もちろん排出する水質についてもちゃんと隊員がチェックして管理しているのだ、業務としてね。だから今では基地のトイレは全てウォシュレットが完備。

基地にいる分にはこれでいいのだが、野外へ観測旅行に出かけるとなると話は別。20Lサイズのペール缶トイレ(災害時に携帯トイレとして使用されているもの)を利用するとか、沿岸地域なら海の氷の割れ目に放出!ただしトイレトペーパーの放置は厳禁とか、ルールが決められているのですよ。

Q：周辺の雪を溶かして水を確保していると聞いたことがありますが、どのようにして確保するのでしょうか。たとえば当番制になっているのでしょうか。

A：深刻な水不足になると、「手空き総員」で130kL水槽（ちょっとしたプールだよ）に雪入れをしますが、ここまではそれほど深刻なことにはなっておらず、運動不足解消に毎日一時間ぐらい、このプールの周りに吹きだまった雪を誰かが入れているって感じかな？今現在、時間をもてあまし気味の隊長（私）とか通信隊員などが暇を見つけてスコップで雪入れをしています。

Q：秋田出身の越冬隊員が3人いるとのことですが、基地内では秋田弁を使いますか。

A：県人同士の会話になるとどうしても「秋田の人どうしの会話」って感じのイントネーションになるねえ。単語レベルの方言はあんまりではこないけどね。

#### ●南極で感じたこと／将来のこと

Q：工藤さんにとって、南極のいちばんの魅力とはなんですか。

A：いろんなことに挑戦できること。おそらく世の中の人の方が知らない世界をいち早く覗く事ができること（けっしてのぞきがしゅみなわけじゃ、ありませぬ）。

Q：任務が終了したらやりたいことは何ですか。

A：海釣りだね、乗合船で！

Q：任務が終了したら食べたいものは何ですか。

A：今はまだ、そんな欲求は出てきてはいないけど、この先、新鮮な野菜と自分で釣った魚をおろした刺身ってところがほしくなるかな？

Q：任務が終了したら会いたい人は誰ですか。

A：もちろん家族（妻・娘・息子）だねえ。どんな具合に育っているのかなあ？

Q：帰国後に地元秋田とかかわる予定、またはご希望などありましたら教えてください。

A：さて、具体的にはこのへんのオファーがあるとか、特に何かしなきゃいけないことは何もないはず。希望かあ？ そうだねえ、夏にでも戻ったおりに仲間と一杯やるってところかな。

ありがとうございました。無事の帰還を祈願しております！